

5月29日 春の野幌原始林の中で

新札幌駅に早朝集合、JRバスに乗り換え文京大南町下車、10分歩いて野幌原始林大沢口に到着しました。この日の観察会には、年配の方々が10数名ほどと小学生を連れた親子それに私達清田高校理科部が参加しました。

広い野幌原始林ですが、この日の観察コースはエゾユスリハコースと大沢コースに見られる春の植物が中心です。講師の横山先生、三澤先生、顧問の大宮先生、春日先生に森の視点を聞きながら写真を撮ったり、落ちていた物を手にとって観察しました。

特に印象に残った植物がいくつかあります。ヘビイチゴは、小さい黄色の花を咲かせていました。イチゴという名前がついているのに、食べられないと知ってちょっと残念な気がしました。茎から葉が同心円状に出ている植物はクルマバソウと言う名前でした。自転車のタイヤで言うとスポークのところは葉っぱということです。ところがオククルマムグラというクルマバソウととても似ている植物がありました。特徴的な違いは茎がサラサラしているかザラザラしているかです。3枚の葉っぱの褐色の花のエンレイソウと白い花の、オオバナノエンレイソウは北大の校章にもなっています。ミズヒキはお祝い事などの封筒についている水引に似ているためこの名前が付いたそうです。サイハイランは采配をふるうという言葉の語源になったからです。昔、戦場で大將が武士たちを指揮するために振った道具、采配に似ているからだそうです。

森の中を流れる小さな沢で小石をめくると白やうすい褐色のくねくねした小さな生きものがついていました。再生の実験に使われるプラナリアです。また、丸まった葉っぱがたくさん落ちていたところがありました。これをオトシブミというそうです。葉の中に幼虫がいると知ってとても驚きました。オトシブミという甲虫は葉を円筒形に丸めてその中に1個の卵を産むのです。上をみると木についている葉も円筒形に丸まっているものがたくさんありました。

森林浴は気持ちよく体に良いと感じましたし、もっと植物や森林のことを調べてみたいと思いました。

清田高校1年 大鎌 有紗 江口 美礼 片岸 幸太郎



これは、クルマバソウです。



食べられないイチゴ、ヘビイチゴ



これは、オトシブミです。



上は、サイハイランです。
右は戦国の武将が使う采配です



沢の石をめくるとプラナリアがいます。

風の止んだ瞬間に接写で撮影

